

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 10 号）の送付について

このことについて、下記のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願  
いします。

記

情報の内容 *Pseudomonas cichorii* (Swingle 1925) Stapp1928による葉枯症の発生

対象作物 コリアンダー（別名：パクチー）

1 発生経過と状況

- (1) 令和 3 年 7 月、砥部町広田のコリアンダー栽培圃場において、葉に斑点症状を示し、症  
状が激しくなると立枯れ症状を示す株が多数確認された（写真 1、2）。葉の斑点組織を顕  
微鏡で観察した結果、細菌が確認されたため細菌病によるものと考えられた。このため、神戸  
植物防疫所に同定を依頼したところ、国内ではコリアンダーにおける未確認の*Pseudomonas*  
*cichorii* (Swingle 1925) Stapp1928による細菌性病害と確認された。
- (2) 発生確認後、降雨が続いたことから圃場全体に被害が急速に拡大した。発生圃場は 1 か  
所であり、周辺にはコリアンダーの栽培圃場はない。

2 病徴

下葉を中心に茎葉部に不整系の黒色水浸病斑や周縁が濃褐色で中央部が淡褐色の壊死斑を  
呈する。さらに症状がすすむと水浸病斑はさらに拡大し壊死斑となる。

3 宿主植物

多くの宿主に感染する多犯性の病原細菌である。本病原細菌による病害として、オクラ葉枯  
細菌病、ナス褐斑細菌病、メロン腐敗病、レタス腐敗病、イチゴ褐斑細菌病などが挙げられる。

4 発生生態と伝搬方法

他の野菜類での事例から、主な伝染源は種子や罹病残渣を含む土壌、周辺雑草と考えられ  
る。主な伝搬方法は、病原細菌の雨水による跳ね上がりで感染すると考えられ、今回の発生  
要因として、夏季の長時間に及ぶ降雨が影響し湿度の高い条件下で発生が助長されたと考え  
られた。

5 防除対策

- (1) 本病に対する登録農薬はなく、耕種的対策を行う。
- (2) 降雨が続くなど、湿度の高い条件下で発生が助長されると考えられ、排水対策や雨よけ  
等の対策を講じる。
- (3) 発生初期の株を早期に発見し、圃場外へ除去するなど周辺株への感染拡大を抑える。
- (4) 健全な種子を使用し、また毎年使用する資材等は消毒して使用する。



写真 コリアンダーの症状 (1: 発病初期 2: 葉枯症状 3: 葉の黄化・枯死)